

空兵、総合演習で能力と即応態勢を誇示 *Airmen showcase capabilities, readiness in wing-wide exercise*

November 2, 2020

By Staff Sgt. Juan Torres
374th Airlift Wing Public Affairs

チーム横田のメンバーは、10月26から30日まで、約1週間に渡って行われたサムライ即応監査演習に参加した。

この総合演習は、横田基地が実際に起こりうる不測の事態に対応する準備ができていることを確実にするため、訓練と技能の練習を通じて基地の即応性の強化を図ることを目的に行われた。

第374空輸航空団は、横田基地の全中隊と群から約180人の監査チームのメンバーの総力を結集し、空兵と対処手順を評価することができた。

「自分たちが何を得意とし、どこに欠点があるか、そして何を改善できるかを把握したい」と第374空輸航空団監査部副部長デイビッド・サイモン少佐は述べた。

演習で、空兵たちは管轄区域内における空中投下、捜索救助、境界線突破、迅速な飛行場修復作業など、さまざまな緊急即応作戦を模擬的に実施した。それぞれのシナリオは、チーム横田の即応能力をテストするために行われた。

第374憲兵中隊標準化・評価担当下士官兼航空団監査チームのメンバーのカリヤ・ハーグローブ技能軍曹は今回の監査について、「横田基地への確かな脅威に基づいてシナリオを作った。航空団レベルの演習でしか実施できない、航空団の統合防衛能力と練習のシナリオに挑んだ。また、参加する空兵が望む習得目標、空軍の指示、上級司令部の規則に基づいて、どう実行するかを評価する」と述べた。

総じて、今回の独自の演習では、あらゆる不測の事態に効果的かつ迅速に対応できる横田の能力が試された。

「横田は空輸作戦の中心的なハブであり、日本の国防を支援し、平時の役割を果たす準備ができている必要がある」とサイモン技能軍曹は述べた。

